

あらゆる流体を コントロールする



株式会社ソダ工業

空気吹き出し技術で 室内を無菌に

「あらゆる流体をコントロールする」。これがソダ工業のテクノロジード。流体とは気体・液体の総称。空気・水・オイル・ガス等が該当する。流体の様々な条件をコントロールし、環境を人工的に創造する同社の技術は、自動車のR&Dやクリーンルーム、手術室等で活用されている。

空調関係の企業に勤めていた曾田勇作社長が独立して立ち上げた同社。自動車の排ガスを分析・測定する前処理として、排ガス中の水分を除去し、一定条件のもとで測定できる環境をつくることで測定精度をアップさせるという独自技術で高い評価を得た。

現在は特殊空調技術を用い、自動車テストにおける温調装置・設備、パイオ関連分野、環境関連分野も柱にしている。パイオ分野は院内感染対策をキーワードとし、解剖室、処置室、手術室などの医療向けが中心。特許を保有する「空気吹き出し（ブロークリーン）技術」では、室内の上方から空気の流れをできるだけ真つすぐに絶え間なく流す。流



れが強ければ床の塵が舞い上がり、弱ければ途中で空気の流れが乱れる。実験と試作を繰り返し、最適なバランスで空間を間仕切りなしに無菌化することに成功した。環境分野では半導体や食品関連、工業用製品の製造・検査等が必要とされるクリーンルーム、低露点ドライルーム、環境試験室等を高精度で省エネを実現する提案で好評を得ている。

自動車走行試験で活躍

自動車の開発には精巧なシミュレーションが必要になる。例えば、新しいエンジンの性能を評価するために、夏場、冬場の環境を模擬した空気、ガソリンをエンジンに与えるなど。それこそ空気・水・オイルといった流体を低温から高温のあらゆる温度領域で最適にコントロールすることが求められる。

自動車は高地と低地、温暖地と寒冷地、高湿度と低湿度等、様々な環境に対応することが求められる。メーカーでは開発費用とスピードを考慮し、実車での走行前にエンジン単体での人工的な模擬環境下での運転試験を行う。ソダ工業の装置はエンジン吸入空気温調装置、供給エア温湿度制御装置、エンジン冷却水温調装置、エンジンオイル温調装置等、温度、湿度、風等を人工的に作り出すことができ、小型車から大型車まであらゆる自動車の走行試験で活用されている。

曾田社長は「古代の人は正倉院で宝物を管理した。科学的な根拠は知らなかったでしょうが、うまく

管理できています。我々はこれを科学的に解明し、ありとあらゆる環境を人工的に作り出せるようにしたい」という。息子で新社長就任予定の曾田裕一郎取締役営業部長も「自動車業界以外にもっと開拓して、新しい風を吹き込んでいきたい」。同社がつくる新しい「流れ」に注目だ。

主な事業内容

自動車テストサ
ポート機器、環
境試験装置
開発等



曾田勇作さん
取締役社長



曾田裕一郎さん
取締役営業部長

株式会社ソダ工業

Company
Profile

住所 / 〒578-0931
大阪府東大阪市花園東町2-8-15
創業 / 昭和49年4月
設立 / 昭和51年12月
資本金 / 4,000万円
従業員 / 35名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-964-1673
FAX / 072-964-1613

ISO 9001
ISO 14001

全国
19
関西
19

<http://www.sodakogyo.co.jp/>